

イングリット・フジコ・ヘミング

ピアノ ソロ リサイタル 2015

Program

F. Schubert (1797-1828)

Impromptu Op.90 No.3

<アンプロンプチュ 作品90-3>

Moments musicaux Op.94 No.4

<楽興の時 作品94-4>

M. Ravel (1875 - 1937)

Pavane pour une infante defunte

<亡き王女のためのパヴァーヌ>

C. Debussy (1862-1918)

Jardins sous la Pluie <雨の庭>

Clair de Lune <月の光>

W.A. Mozart (1756-1791)

Sonata A-dur alla Turca

<ピアノソナタ第11番(トルコ行進曲付き)>

..... intermission

F. Chopin (1810-1849)

Nocturne Op.9 No.1

<ノクターン第1番 作品9-1>

Etude "Revolutionary" Op.10 No.12

<エチュード 革命 作品10-12>

F. Liszt (1811-1886)

Frühlingsnacht S. 568 (Schumann-Liszt)

<春の宵 S. 568>

Etude No.6 (Paganini-Liszt)

<エチュード 6番>

La Campanella

(from *Grandes Etudes de Paganini*)

<ラ・カンパネラ>

※曲目、曲順は変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

2015.12.14 Yamaha Hall

イングリット・フジコ・ヘミング(ピアノ)

Ingrid Fuzjko Hemming, piano

スウェーデン人画家・建築家の父と、日本人ピアニストの母の間にベルリンで生まれる。母の手ほどきでピアノを始め、10歳でレオニード・クロイツァーに師事。クロイツァーは「彼女はいまに世界中の人々を感激させるピアニストになるだろう」と予言していた。東京芸大を経て、文化放送音楽賞・NHK毎日コンクール受賞、その後、ベルリン高等音楽学校に1位で入学。その後、ウィーンでパウエル・バドゥラ＝スコダに師事。ブルーノ・マデルナ、レナード・バーンスタイン、チェルカウスキー、マガロフ等多くのクラシック界の権威にその才能を認められて支持を獲得しコンサートを行っていたが、聴力を失うアクシデントに遭遇。1999年、リサイタルとNHKのドキュメント番組が大反響を呼び、デビューCD「奇蹟のカンパネラ」他をリリース。クラシック界異例の売り上げで、日本ゴールドディスク大賞、クラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤーを4回受賞した。モスクワ・フィル、ロイヤル・フィルなど世界各地の著名オーケストラと共演。彼女と共演したミッシェル・マイスキーは「あなたの芸術を賞賛します」と形容している他、共演した多くのアーティスト達が絶賛している。また、ヨーロッパの数々のフェスティバルからも招待されている。

ワルシャワのショパンフェスティバル

Zycie Warszawy: responding to a heart-felt standing ovation... enticed the prominent evening audience.

ジチェ・ワルシャーヴィ紙／

特別な招待客の心に響き、スタンディングオベーションを受けた。

The New York Times: Brilliant! She received a standing ovation!

ニューヨークタイムズ紙／

素晴らしい演奏! 彼女はスタンディングオベーションを受けた!

毎年多くのチャリティ・コンサートを行っている他、大の動物愛護者であり、ドイツには彼女の名を冠した動物愛護団体も出来ている。2013年、スペイン最大のクラシック・ラジオ番組「カタルーニャ・ラジオ」のリスナーにより、フジコの最新CDが1位に選ばれた。2014年には9月から11月までヨーロッパ9カ国11会場で演奏会を開催し、各地でスタンディングオベーションを受け大好評を博した。6月にはプラハラジオシンフォニーと共演、素晴らしい演奏に拍手の嵐であった。今後の予定として2016年6月24日すみだトリフォニーホール、7月3日軽井沢大賀ホールの公演を控えている。